

＜岩成台中学校区＞学校統合に向けた第2回意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年11月22日（土）午前10時～正午

2 開催場所

東部市民センター 多目的室

3 参加者数 22名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	田中 秀治
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

学校統合に向けた検討について

5 会議資料

＜岩成台中学校区＞学校統合に向けた検討について

1 開会

【教育部長あいさつ】

日頃より市政にご理解とご協力いただき、御礼申し上げます。

小中学校の適正な規模や配置について検討を進めるため、これまで、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区において、保護者や地域の方を対象にアンケートを実施し、また、学校ごとに意見交換会を実施してきたところです。

本市では子どもたちの急増に対応するため、昭和60年度までに学校の新築や増築を急ピッチで行ってきました。ところが、今や全国的に少子化が進む中、本市でも子どもたちの数が減少しており、この先、小学生は令和13年度で、ピーク時から56.5%の減少、つまりは半分以下になっていきます。岩成台中学校区においては、さらに大きな割合で減少し、岩成台小学校はピーク時から78.3%の減少、岩成台西小学校は71.9%の減少になると推計しています。この減少幅について、皆様も驚かれると思います。

これまでの意見交換会では、市の具体的な方針がまだ示されていないというご意見をいただきました。現時点では、市として具体的な方針を決めるタイミングではなく、まずは皆様のご意見を受け止める時期と捉えております。そのため本日の意見交換会におきましても、今後の学校のあり方について春日井市教育委員会として具体的な方針をまとめるにあたり、地域の皆様の声をお聞きしたく、実施させていただくものでございます。

これまで坂下地区とニュータウン地区で17校を対象に意見交換会を実施してきましたが、実に多くの意見をいただいております。それぞれの地域にはそれぞれの地域性や実情があることを実感しています。今回、岩成台中学校区の意見交換会ということで、第1回に実施した意見交換会よりも少し踏み込んで市の考え方をご提案させていただこうと考えております。

学校は地域の皆様にとって、防災や住民同士の交流の場など地域に根ざした施設ではありますが、何よりも将来を担う子どもたちが学び成長していく大切な場です。まずは、子どもたちにとって学校がどうあるべきか、何が最適であるかという視点に立つことが重要であると考えています。どうなっていくか不安なことはたくさんあると思いますが、一方で新しくなるかもしれない学校の姿に大きな期待を抱くこともたくさんあると思います。皆様と一緒に子どもたちにとってより良い学校の姿がどうあるべきか、考えていけたらと思います。

本日は皆様の率直なご意見をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

2 議題

(1) 学校統合に向けた検討について

【事務局】

I 小中学校の適正規模等の取組について（資料1～4ページ）

- ・日本の人口は減少局面に入り、全国的に出生率が減少する中、本市においても同様に、子どもたちの数の減少が進んでいる。
- ・本市の小学生の人数は、昭和56年度の30,636人をピークに、令和13年度には約57%減少の13,312人に、中学生の人数については、昭和61年度の15,330人をピークに、令和19年度には約59%減少の6,221人になると推計している。
- ・子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進めている。
- ・本市では、今年の2月に「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定した。その中で、国の基準を参考に、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けた。学級数の基準については、現行の1学級あたりの児童生徒数の基準で推計しており、小学1年生から中学1年生までは35人、中学2年生及び3年生は40人としている。
- ・規模が小さい学校の主なメリットは、次のことがあげられる。
 - ① 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
 - ③ 様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。
 - ⑥ 異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
 - ⑦ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に活かした教育活動が展開しやすい。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、学級数が少ないことによる主な課題については、次のことがあげられる。
 - ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
 - ③ 教員の加配なしには、習熟度別指導など、クラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。

- ⑦ 体育科の球技や音楽科の合唱や合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑩ 教科などが得意な子どもの考えに、クラス全体が引っ張られがちとなる。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、教職員数が少なくなることによる主な課題については、次のことがあげられる。
 - ① 経験年数や専門性、男女比などのバランスの取れた教職員配置やそれらを活かした指導の充実が困難となる。
 - ③ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる。多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ・規模が小さい学校のデメリットのうち、学校運営上の課題が児童生徒に与える主な影響については、次のことがあげられる。
 - ① 集団の中で自己主張したり、他者を尊重したりする経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
 - ③ 協働的な学びの実現が困難となる。
- ・クラス替えが可能になることによる主なメリットは、次のことがあげられる。
 - ① 児童生徒同士の間関係や、児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。
 - ② 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる。
 - ③ 新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる。
 - ⑥ 学級の枠を超えた習熟度別指導や学年内での教員の役割分担による専科指導などの多様な指導形態をとることができる。
- ・本市は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えている。そこで、どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や、一部の学年でクラス替えのできない「小規模校」について、過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討することとしている。
- ・中学校区で見た場合に、将来すべての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、今年度に入り、小中学校のPTA 役員の皆様への説明・意見交換をし、次に、保護者や子どもたち、地域の方へのアンケートを実施した。その後、対象の中学校区にある17校で第1回意見交換会を実施した。

II 児童生徒数推計について（資料5～6ページ）

- ・中学校では令和19年度まで、小学校では令和13年度までは、令和7年度の0歳から5歳の子の実際の人口に基づき推計している。令和22年度は、市が人口の現状分析などから将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」と言われる計画から推計している。
- ・岩成台中学校は、今年度、生徒数235人、7学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後、生徒数及び学級数は減少し、令和22年度では、全学年でクラス替えができない「過小規模」と推定される。
- ・岩成台小学校は、今年度、児童数201人、8学級で、学校規模は、クラス替えができない学年がある「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和11年度から「過小規模」と推定される。
- ・岩成台西小学校は、今年度、児童数295人、12学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和12年度から「小規模」になり、令和22年度では「過小規模」と推定される。
- ・岩成台小学校と岩成台西小学校を統合した場合の児童数の合計は、令和13年度では、児童数369人、14学級で、学校規模は「適正規模」だが、令和22年度では、児童数199人、8学級で「小規模」と推定される。
岩成台小学校と岩成台西小学校を統合したとしても、令和22年度ではクラス替えができない学年があり、適正規模の課題が解決しないこととなる。

III アンケート結果について（資料7～10ページ）

- ・「1 学校の適正規模等に取り組むことについて」のうち、「1学年に2学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答された「賛成」の方の割合は、岩成台小学校、岩成台西小学校の2校を合計した小学校「全体」の保護者で58.1%となっている。地域の方も小学校単位で集計しており、地域の方は71.6%の方が賛成と回答している。また、岩成台中学校の保護者は、61.8%が賛成と回答している。
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答された「反対」の方は、小学校全体の保護者で9.5%、地域の方で19.4%、岩成台中学校の保護者で10.6%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響があるから」と多くの方が心配している。
- ・前の質問で「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、又はお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、小

学校、中学校ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。

- ・「2 複数学級を望む声について」では、複数学級が望ましいと考えている小学生の保護者は 96.8%、小学生では 85.9%となっている。また、中学生の保護者は 99.4%、中学生では 98.9%となっており、小学校、中学校ともに、多くの方が複数学級が望ましいと考えている。
- ・「3 学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「体育大会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。地域の方は「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。
- ・「4 魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもの人間関係に広がりがあること」が重要と考えている。地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をとっても多くの方が重要と考えている。
- ・「5 学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については安全性や時間が重要と考えている。

IV 意見交換会でのご質問・ご意見について（資料 11～19 ページ）

- ・岩成台中学校での意見交換会は 9 月 26 日に開催し、参加者は 6 人であった。岩成台中学校での質問は、「アンケートについて」が 3 件、「統合に関することについて」、「学校跡地について」などがそれぞれ 2 件、「児童生徒数推計について」、「意見交換会について」などがそれぞれ 1 件の合計 15 件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

12 ページの質問No.2「岩成台中学校と藤山台中学校は距離も近いし、統合すべきだと思う。部活動を盛り上げるためにも一定規模の子どもの数が必要ではないか。」との質問では、「児童生徒数が減少すると、過去のような盛んな部活動ができなくなると思います。子どもたちの活動の場を確保するためにも、市では一定規模の学校が必要と考えており、生徒数が増えれば、教員数も増え、盛んな部活動ができるのではないかと考えます。」と回答している。

13 ページの質問No.8「今後のスケジュールを知りたい。」との質問では、「スケジュールはまだ決まっておらず、地域の皆さまと市の合意形成のタイミングによって、今後の進め方が変わってきます。仮に統合すると決まった場合、学校をリニューアルする場合や新しい学校をつくる場合など工事が必要になれば 5 年程度の期間が

必要となり、既存の学校を使用するのであれば、より早い期間で取組が進むと考えます。」と回答している。

- ・岩成台小学校での意見交換会は9月29日に開催し、参加者は23人であった。岩成台小学校での質問は、「今後の具体的な検討の進め方について」が3件、「学校跡地について」、「情報発信について」などがそれぞれ2件、「統合に関することについて」、「児童生徒数推計について」などがそれぞれ1件の合計18件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

15 ページの質問No.6 「統合すると子どもの家の定員はどうなるのか。」との質問では、「子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、統合後の学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し、検討していきたい。」と回答している。

16 ページの質問No.12 「小中学校は防災拠点としての役割がある。跡地の建物などは防災拠点として使う必要があると思う。」との質問では、「現状、跡地の利活用について、決定していることはありません。学校が防災拠点や投票所として使用され、地域の方の拠点施設となっていることは承知していますが、学校規模の適正化等の取組については、子どもたちの教育環境の向上を最優先に考えたいと思っていますので、跡地の問題は一旦切り離し、市全体で別に検討したい。」と回答している。

- ・岩成台西小学校での意見交換会は10月3日に開催し、参加者は19人であった。岩成台西小学校での質問は、「統合に関することについて」、「1学級の人数について」がそれぞれ3件、「児童生徒数推計について」、「その他の市の施策について」がそれぞれ2件、「通学バスについて」、「魅力ある学校づくりについて」などがそれぞれ1件の合計14件であった。

その中から質疑応答の主なものを紹介する。

18 ページの質問No.6 「令和22年度の推計は先のことにように感じるが、この年度まで推計した理由を聞きたい。」との質問では、「学校の適正規模等の取組は、検討から開校まで長い時間を要することから、人口推計についても可能な限り先の状況を見据え、令和22年度まで推計値を出しました。藤山台小学校の統合の際は、想定以上に子どもの数が減ったこともあり、先を見据えて検討する必要がある。」と回答している。

質問No.7の3段落目「1学級35人は多いと感じているので、春日井市独自の基準で1学級あたりの人数を変えることはできないか。」との質問では、「1学級あたりの人数については、国・県の1学級の編制基準があるため、春日井市だけで1学級あたりの児童数を変更しても、県から配置される教員の数が足りなくなります。教員の不足や、市の予算上の課題もあり、市独自の設定は難しい。」と回答している。

- ・各学校の意見交換会において質問が多かった「過去の藤山台小学校の統合」及び「他市の事例」を紹介する。(資料記載なし)

- ・藤山台小学校の統合について

当時のスケジュールは、平成 21 年 12 月に「小中学校の適正規模等に関する基本方針」を策定し、「藤山台小学校を最優先に過小規模校の早期解消」の考えを示した。

その後、平成 22 年 4 月に、藤山台中学校区学校規模適正化地域協議会が設置され、平成 24 年 2 月には、「藤山台中学校区のよりよい教育環境の実現に向けた第 1 次小学校統合計画」、平成 25 年 2 月には、その「第 2 次小学校統合計画」を策定した。

そして、平成 25 年 4 月に、藤山台小学校と藤山台東小学校が統合し、平成 28 年 4 月には、西藤山台小学校も統合し、新たな藤山台小学校が開校した。協議会が設置されてから、開校まで 6 年の期間がかかっている。

なお、西藤山台小学校の通学区域であった白山町 5 丁目は、協議により、不二小学校の通学区域となった。

統合の成果など良かった点としては、「子どもへの影響」「学校運営への影響」「地域への影響」で分けられる。

子どもへの影響については、「新しい校舎や設備など充実した環境で、過ごすことができる。」「児童の数が増え、クラス替えもできるようになり、多くの友達とコミュニケーションができるようになった。」などがあつた。

学校運営への影響については、「運動会をはじめとする学校行事が活発になった。」などがあつた。

地域への影響については、「地域住民の地域や子どもに対する関心が高まり、地域イベントが充実してきている。」などがあつた。

課題など今後の取組に参考となる意見については、「統合で校区が広がり、通学距離が長くなった児童がいる。」「統合したものの、魅力ある学校づくりには至っていない。」「2 段階の統合も仕方がないが、1 度で済む方が望ましいと思う。」「保護者の意見は様々あるため、早めの情報発信が必要である。」などがあつた。

- ・他市の事例（瀬戸市「にじの丘学園」）

瀬戸市の「にじの丘学園」は、小学校 5 校、中学校 2 校を統合し、小中一貫校として令和 2 年 4 月に開校した。平成 26 年 5 月に瀬戸市立小中学校 PTA 連絡協議会が「適正規模適正配置の推進を求める要望書」を提出してから、施設整備などの協議、工事を経て、令和 2 年 4 月に開校した。

学校の中心にライブラリーや多目的スペースを配置し、地域や子どもたちの交流が自然に生まれる場所がつくられるなど、異なる学年の子どもたちがお互いに刺激を受け、学習意欲を高め合える場となっている。

小中一貫教育の導入に加え、施設としても魅力ある学校づくりが推進されることで、全国的な人口減少の中でも、在籍する児童生徒数は増えており、令和2年度に663人、24学級であった小学生は、令和6年度には831人、31学級に、中学生は、令和2年度に199人、9学級が、令和6年度には324人、13学級となっている。魅力ある学校づくりが児童生徒数の増加につながった例といえる。

・他市の事例（小牧市「篠岡地区学校再編計画」）

小牧市では、「小牧市新たな学校づくり推進計画」を策定し、速やかな対応が必要な地区として、桃花台ニュータウンが位置する篠岡地区で取組を進めている。

篠岡地区での学校再編計画を「しのおか学園構想」として、第1期再編では、5小学校、3中学校を、現在の校舎を活用し、2小学校、2中学校に再編し、令和9年4月に開校予定としている。

その後、第2期再編で1小学校、1中学校の体制に再編するのにあわせ、小中一貫校の新設を検討している。また、検討ではスクールバスについても協議されており、対象エリア等について協議が進められている。

現在は、「篠岡地区学校再編計画（案）」について、パブリックコメントが実施されている。

V 本市の考え方について（資料20ページ）

・「1 児童生徒数推計」から、

(1) 令和22年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が1学級の「過小規模」と推定される。また、小学校については、岩成台小学校と岩成台西小学校を統合した場合でも、「小規模」になると推定される。

・「2 アンケート結果」から、

(1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。

(2) 保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。

(3) 一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。

- ・「3 地域の特性」として、
 - (1) ニュータウン地区内で、岩成台中学校区は藤山台中学校区、高森台中学校区と接している。岩成台中学校は、直線距離で、藤山台中学校から約0.9 km、高森台中学校から約2.3 kmの距離に位置しており、藤山台中学校が最も近い距離にある。
- ・「4 意見交換会」では、
 - (1) 参加者からは、学校の統合に関することを始め、今後の具体的な検討の進め方やスケジュール、学校の跡地についての質問が多くあった。また、魅力ある学校づくりや市からの情報発信についてなど、様々な質問があった。
- ・これらのことを踏まえ、岩成台中学校区における取組の本市の考え方について、岩成台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、隣接する中学校区との学校統合に向けて検討を進めていきたいと考えている。

検討にあたっては、

- 1 隣接する中学校区として、藤山台中学校区を対象に検討していく。
- 2 藤山台中学校区と合同の意見交換会や懇談会の開催を検討する。
- 3 登下校について、必要に応じて、バスの利用などの通学手段を検討していく。
- 4 子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討していく。

3 意見交換

【質問1】（意見）

瀬戸市の「にじの丘学園」が魅力的な学校であるため、児童生徒数が増えているとのことだが、学校区で区画整理が進んだ影響で分譲住宅が多くなり、人口が増えている。そのため、必ずしも学校の魅力だけで人数が増えているわけではないと思う。

【質問2】

現在、防犯防災の訓練やゲートボール大会などのイベント、地域の活動を小学校で行っている。仮に統合となると、このような地域と学校のつながりが大きく制限されるように感じる。統合を進める際は、地域との対話を丁寧に行ってほしい。

【事務局】

私たちも統合に向けた取組を進めるにあたり、地域のつながりを重視しています。仮に統合した際は、地域の新たなつながりが生まれるとも思います。今後も地域との関係性について、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

【質問3】

猛暑の中、通学時間が長くなることは非常に心配である。またスクールバスなども検討するとのことだが、スクールバスの会社はとて少なく、運転手もなかなかいない。退職された高齢者を運転手に採用することも多くあるので危険だと感じる。スクールバスを出せば解決するような簡単な問題ではない。

また、きめ細かな教育がクラス替えよりも大事なことであると思う。国や県で基準が定められているため、少人数学級を維持することは難しいとは思いますが、市独自の予算をつけるなど、少人数で子どもたちを見てもらえる環境づくりをしてほしい。

【事務局】

スクールバスについて、運転手が不足している状況は多く聞きます。他市では、瀬戸市は既存のバス路線を活用した通学方法、小牧市はスクールバスの運行を考え、エリアの設定を行っているところと聞いています。スクールバスについては、今後も皆様に情報提供をしながら、共に検討していきたいと思えます。

少人数学級について、ご家庭の考えやお子様の性格はそれぞれで異なるので、少人数学級が合うか合わないかは変わってきますが、市としては、クラス替えができる規模が適正であると考えています。また、子どもたちが義務教育を受ける中で多くの人と関わることは大事であると考えています。実際に学力の数値として表れるわけではありませんが、子どもたちは毎日学校に通って様々な体験をして成長していきます。トラブルやけんかなどもあると思えますが、それを経験していくことが成長のために必要であると考えています。

【質問4】

少ない人数を見る方が教員にとっては良いのか。また仮に統合するとした場合に、複数の学校を1校に統合することはコスト削減になると思う。その削減分は子どもたちに対して間接的に還元されるのか。

【事務局】

教員一人あたりが見る子どもの人数が少ないほど、子ども一人ひとりに目が行き届きやすくなり、教員の精神的な負担も軽くなることはあると思えます。ただ一方で、同じ学年に別のクラスの教員がいない場合、教員の資質向上につながりにくいと思えます。複数のクラスがあるということは、教員が切磋琢磨する環境が生まれ、様々な視点から教育に向き合うことができます。また、子どもたちにとって、教員が常に助けてあげられる環境が果たして良いことであるのかと考えます。子どもたちは、自己選択をして決断することで成長につながると思えます。

学校のコストについて、藤山台小学校を新しく建設した際の金額は約40億円でした。今、建設するとなると物価高の影響で当時よりも高くなると予想されます。

一方で、春日井市では古くなった学校に対してリニューアル工事を進めており、学校の規模にもよりますが、1校あたり約20億円から25億円ほど必要となります。既存の学校数をそのまま残していくのと、統合して仮に新しい施設を建てる場合との比較でもコストの差が生じます。また、光熱水費や修繕といった施設の維持管理費は1校あたり年間で約5,000万円かかっています。仮に統合となり、学校の数が減れば、これらのコストも削減することができます。予算は市全体で考えるため、削減できたコストを全て子どもたちに還元できるとは限りませんが、子どもたちに、より良い教育のための環境を整えることはできるのではないかと考えています。

【質問5】

藤山台小学校は学校が新しいので、スムーズにいけば3年くらいで統合できるのではと思うが、他の校区は工事が必要になれば5年程度かかるとして検討を進めていると思う。5つの学校区が足並みをそろえて統合に向けて動き出すのか。それとも各中学校区で意見がまとまった地区から進めていくのか。

【事務局】

5中学校区で意見がまとまったら統合を進めるわけではなく、早く合意形成ができた地区から進めていきたいと考えています。小規模校、過小規模校があるという現状は、市として良い状態とは考えていないので、可能な限り早く解決できるように取組を進めていきます。今回、岩成台中学校区と藤山台中学校区で統合の検討を進めていきたいとお話させていただきましたが、今の藤山台小学校を使うことは前提としていません。新しい学校を建設することも含め、どこに統合するかなど具体的なことは皆様と共に検討を進めていきたいと考えています。

【質問6】

少子化が急激に進む中、統合するという方向性は必要不可欠であると思う。また現在、小学校の体育館は避難場所に指定されており、地区社会福祉協議会で避難所運営マニュアルを独自に作成した。提案だが、避難のことも考えると、統合するとなった際には高座台5丁目を岩成台小学校区から切り離して、高座小学校に学区変更してほしい。

また、通学について、昔は30分ほど通学時間がかかった。統合するとなれば、通学時間が長くなることは覚悟しなければならないことであると思う。その際に自転車通学も一つの手段として考えてほしい。

【事務局】

避難所のことも考え、現在の高座台を高座小学校区に学区変更することにつきましては、今後、検討を進めていく中で、新しい学校の場所によっては、別の学校の

方が近くなる場合もあります。個人の意見をそれぞれ聞くことは難しいですが、その地区の総意として、学区を変更したいという声が挙げれば検討していきたいと考えています。

通学につきましては、アンケートの集計結果からも保護者の方は通学の安全性や時間を心配する声が多くありました。また第1回目の意見交換会で出た意見として、バスを出すことは良いことであると思うが、子どもたちが歩かなくなることは、体力面を考えたときに心配であるという声もいただいています。今後、バスの運用や自転車通学についても具体的に皆様と検討していきたいと考えています。

【質問7】

令和22年度における推計値について、人口ビジョンの春日井市全体の子どもの人数の変化から見ると、今回の資料の数値は減少幅が大き過ぎるように思うが、どのように計算しているのか。

【事務局】

令和22年度の推計については、人口ビジョンの児童生徒数の推計から算出しています。この人口ビジョンは過去の国勢調査の人口推移から生存率や出生率、転出転入率などを踏まえた上で地区ごとに推計しています。そのためニュータウン地区については、市全体と比べて減少幅が大きくなっています。

【質問8】

高蔵寺ニュータウンの歴史や特色を踏まえて考えてほしい。ニュータウン創生課と強固な連携を取らないと、学校が統合するから違う地区に住むという選択をする方が多くなると思う。反対に、少人数学級の学校を維持すれば、地域の特性として根付き、様々な場所から人が集まってくるかもしれない。

【事務局】

今後、若い世代が転入してきて子育て世帯が増えるということは一番望ましいことであると思います。それがリ・ニュータウン計画の一つの施策であると思いますが、今の子どもたちの教育環境をそのままにしておけないので、両立させながら進めていきたいと思います。また魅力ある学校をつくることがまちづくりにつながるような施策になればよいと考えています。

【質問9】

藤山台小学校は比較的校舎が新しく、岩成台小学校も何年か前に耐震補強している。場当たり的な形ではなく、10年～15年スパンの中長期の計画をもって取り組んでもらいたい。

名鉄バスについて、昼は利用者も少ないので、バスや運転手が余っている実情があると思う。これらのことから、通常の基幹ルートそのままを使うのか、小学校特別ルートを作るのかを踏まえて、一緒に検討してもらおうと、子どもとバス会社両方にメリットがあるのではないかと。

また、授業について、児童数の規模については、国と県で決められているので、そこを変えるのは大変と思う。統合することによって、学校の数が減り、先生に余裕ができるのであれば、30人以上の学級については、ティーム・ティーチングにするといったルールを作るなどの検討を進めてほしい。

【事務局】

統合については、ご意見いただいたとおり、長期的な視点をもって考えていかなければいけないと考えています。今回は令和22年度という15年先の子ども数を推定しています。今後検討を進める中で、児童生徒数の推計は変わっていきますので、皆様に情報提供しつつ、先を見据えた統合を考えていきます。

次に、バスの確保は難しい状況もあると考えているので、バス会社と協議しながら、既存のバス路線も活用できたらよいと思っています。

授業については、現在も春日井市独自の予算で、ティーム・ティーチングに入れる先生を配置しているだけでなく、授業と担任ができる先生についても加配を行っています。人数が多い学校については、市独自の加配の人数を増やしていくことは可能なので検討していきたいと思います。

【質問 10】

仮に統合が決まった場合、校舎の場所を決める基準があるのか。在校生が多い方が優先されるなどの基準があれば聞きたい。

【事務局】

基準はありません。今後、具体的な検討を進めていく中で、市として複数の案を提示しながら皆様と議論していきます。

【質問 11】

今回の意見交換会では、藤山台中学校区を対象に検討すると明言された。前回の岩成台小学校と岩成台西小学校の意見交換会に参加したが、その時にはそういった意見はなかったと思う。藤山台小学校、中学校での意見交換会ではそういった意見があったのか。

【事務局】

1回目の藤山台小学校、中学校の時にも、特にそのような具体的な話はありませんでしたが、藤山台中学校区は中学校と小学校が1校しかありません。そのため、

藤山台中学校区だけでは適正規模の課題を解決しようがないという話はした上で、中学校区を越えた検討が必要であるとお伝えしました。

【質問 12】

小中一貫校は検討していますか。

【事務局】

これから検討していくことになると思います。小中一貫校は、魅力ある学校づくりの一つの手段であり、議論を進めていく中で、市からメリットやデメリットを示し、提案することがあると思います。

【質問 13】

藤山台小学校と岩成台小学校、岩成台西小学校が統合するとなると、新しい校舎である藤山台小学校に統合されると思う。そうすると、岩成台地区に住んでいると駅は近いけど、小学校は遠いところになることを懸念している。

また、令和 22 年度という、まだ誰も分からない数字を見据えて統合してしまうのはどうなのか。新しい学校ができることによる、子どもたちや地域の未来像などの魅力ある話し合いができると、多くの人が納得すると思う。

【事務局】

今後も懇談会で具体的な検討を進めていくことになると思いますが、市から複数の案を提示させていただくとともに、皆様からも魅力ある学校づくりのための意見を伺いながら検討を進めていきたいと考えています。

【質問 14】

高蔵寺ニュータウンでは急激に空き家が増えている。配布資料の児童数推計を見ると高蔵寺ニュータウンに住んでももらえない。そのため単なる統廃合だけでなく、特色ある学校づくりが重要である。なるべく早く、統合のビジョンだけでなく統合による良い影響についても示してほしい。

スクールバスについて、公共交通機関を使うことに抵抗ある人はいないと思う。公共交通機関を使って、有効な通学方法を検討することが大切であるとする。

【事務局】

市としても、スピード感をもって取組を進めたいと考えていますが、皆様とは今後もしっかり話し合いを続けていきたいと考えています。魅力ある学校づくりがまちづくりにつながってほしいという思いは皆様と一緒にあると思うので、今後もその視点ももって検討を続けていけたらと考えています。

【質問 15】

学童について、3年生までしか入れない状況にあるところもある。共働き世帯が増えている中、小学校の中に学童があり、安心して6年生まで利用できるように合わせて検討してほしい。

【事務局】

ニュータウンの地区では、学校の敷地内に子どもの家を設置している状況です。利用できる人数については、年齢制限を設けているわけではありませんが、定員が国の基準による施設の面積と職員の配置によって決まることもあり、低学年の子を優先的に入れるようにする結果、高学年が入りづらい状況になっているところもあります。学童は放課後の子どもの居場所として重要であると認識しており、仮に統合するとなると児童数が増えることから、子どもの家を担当している部署としっかり連携して考えていきます。

【質問 16】

統合するにあたって、子どもたち自身がストレスに感じる子もいると思う。藤山台小学校が統合された際、子どもたちに何か影響があったのか。また、それに対しケアをしたのか。

【事務局】

藤山台小学校の3校を統合する際には、子どもたちに心配や負担がかからないように、事前に統合する学校間で子どもたちの交流を深める機会を設け、スムーズに子どもたちも馴染めるように進めてきました。

藤山台小学校を統合したときの当時の校長先生に話を聞いたところ、統合については、子どもたちは思っていた以上に早く適応してくれたと話しており、どちらかという、保護者の方が関係性を構築していくことに時間がかかったと伺いました。

【質問 17】

市の財政状況から考えて、今の段階で、既存の施設を使う可能性が高いのか、瀬戸市の学校のような素晴らしい魅力あるような施設をつくっていけるのか教えてほしい。瀬戸の学校のページをみたが、施設は大変良く、藤山台小学校の時の40億円よりもっとかかっているのではないかと思った。また小中一貫校のメリットやデメリットがあれば教えてほしい。

【事務局】

市として持続的に皆様に快適に過ごしていただくためには、公共施設の規模をある程度、人口に見合った規模に小さくしていけないといけないという考えがあります。しかし、学校を全てなくす考えはなく、子どもたちの数に見合った一定規模に

していくことが一番良いと考えています。そのため全ての学校をリニューアル工事するよりは、学校の数を減らした上で新しい学校をつくる方が財政的には負担は軽いかもしいないという考えがあります。

小中一貫校について、小学校1年生から中学3年生が同じ学校に通うことになり、異年齢の子どもが同じ環境で9年間過ごすことはメリットだと思います。また英語や理数教育において、中学校の教員がいますので人材交流して授業を行うこともできると思います。

【質問 18】

今後のスケジュールについて教えてほしい。

【事務局】

今後のスケジュールについては、この後に開催する藤山台中学校区での2回目の意見交換会を踏まえて、次は岩成台中学校区と藤山台中学校区と合同の意見交換会を開催したいと考えています。そこで考えがある程度まとまれば、この地区における統合に向けての基本方針を作成していきたいと考えています。

【教育部長総括】

コミュニティの維持について、今まで積み重ねてきた地域のつながりがなくなってしまうことが非常に寂しいことであるという意見をいただきました。市としても、コミュニティのつながりは重要であると考えていますので、新たな学校づくりになるとしても、コミュニティの維持もしくは新たな学校をもとにした新たなつながりが展開できると考えています。

少人数学級の点につきましては、クラス替えができない規模は子どもにとってどうなのかと考えたとき、岩成台、藤山台中学校区の小中学校が1クラスずつになると、小学1年生から中学3年生まで同じ1クラスで人間関係を構築しなければならないこととなります。その場合、一度、人間関係でつまずいてしまうと、関係をやり直す機会が全くなくなってしまう、その子どもにとって苦痛な学校生活になる可能性が高くなると思います。少なくともクラス替えができて、人間関係をやり直したり、様々な友人や先生に出会うことで、社会性や人間関係を構築する術を学ぶ機会を提供していくことが必要であると思います。そのため、少なくとも2クラスということが今回の検討の原点にあります。

5つの中学校区で進めています、どのような順番で進めていくのかというご質問につきましては、地区ごとに意見交換会を進めており、意見がまとまった地域から着手していきたいという思いがあります。特に、坂下地区では地域の特性としてまとまりやすいですが、岩成台中学校区に関しては岩成台中学校区と藤山台中学校

区の統合ということでご提案させていただきました。ただ、ニュータウンの歴史などを考えると、広域的な視点も欠かせない部分がありますので、藤山台と岩成台だけで検討することは言い切れないと考えています。他の中学校区での意見も踏まえながら、ニュータウン地区全体としての視点で考えていく必要もあると思います。

ニュータウンの歴史を踏まえてほしいというご意見につきましては、当然、守るべきものは守った上で、今の時代や将来の時代に見合った考え方を取り入れていく必要があると思いますので、今後の議論の中でバランスよく検討を進めていきたいと考えています。

魅力ある学校づくりというご意見に関しては、統合によって無くなる学校があるかもしれませんが、ハード面とソフト面で魅力ある学校づくりができれば、新たな地域づくりにつながると考えていますので、決して悲観的に捉えることなく、期待をもって議論を進めていくことができれば良いと考えています。今回は 20 人程度の方に参加していただいておりますが、より多くの方に関心を持っていただき、意見を多く出していただいて、市と皆様で作り上げる学校づくりや地域づくりをめざしていきます。難しい課題ではありますが、引き続きご理解とご協力を賜りたいと思います。

4 その他

【事務局】

- ・今後の進め方について、11月29日（土）に藤山台中学校区で第2回意見交換会を予定している。その状況を踏まえて、岩成台中学校区と藤山台中学校区との学校統合に向けた検討を進めるため、両地区合同で意見交換会を実施したいと考えている。
- ・次の意見交換会の日時等については、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へはHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

正午 閉会